

「心は燃えていた」

2016年01月27日

ルカによる福音書 24章 28節～35節。一行は目指す村に近づいたが、イエスはなおも先へ行こうとされる様子だった。二人が、「一緒にお泊まりください。そろそろ夕方になりますし、もう日も傾いていますから」と言って、無理に引き止めたので、イエスは共に泊まるため家に入られた。一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合った。そして、時を移さず出発して、エルサレムに戻ってみると、十一人とその仲間が集まって、本当に主は復活して、シモンに現れたと言っていた。二人も、道で起こったことや、パンを裂いてくださったときにイエスだと分かった次第を話した。

クレオパともう一人の弟子が、主イエスの十字架の死によって弟子の使命は終わったと、傷心の思いでエマオに向かっていた。その途上で、復活した主イエスが現われ、同行されたが、主イエスとは気づかなかった。二人の弟子は同行する人に語った。ナザレのイエスは力ある言葉と行いからイスラエルを解放してくださると期待を寄せたが、神殿当局によって十字架で無残に殺された。ところが、婦人たちが埋葬した墓に遺体はなく「イエスは生きておられる」と証言している。死人の復活などあり得ないと思い、帰郷していると。主イエスは彼らの不信仰を咎め「メシアは苦しみを受けて、栄光に入るはずではないか」と言われ、旧約聖書全体から、ご自身について書かれていることを説明された。

目指す村に近づいたが、主イエスは先へ行こうとされるので、二人は「一緒にお泊まりください。そろそろ夕方になりますし、もう日も傾いていますから」と強いて引き止めた。聖書の話をもっと聞きたいと思ったのである。主イエスは求めに応じてくださった。食事の席に着いた時、主イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。その時、二人の目が開け、主イエスだと分かった。それは、ガリラヤでの供食の時、過越の食事の席、いつもの、賛美と祈りの姿と同じであったからである。二人は、主イエスは復活して、ここにおられると喜びに満たされた瞬間、主イエスの姿は見えなくなった。

二人は「道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合った。彼らは道々、主イエスの聖書の説き明かしを聞きながら、心が燃えた。真理は人の心を燃やすのである。彼らは即座に、11kmの道のりをエルサレムに取って返した。エルサレムに戻ってみると、11人の弟子たちと仲間が集まっており、彼らも、主イエスは復活し、シモン・ペトロに現われたと、主イエスの復活は真実であると告げた。二人も、道で起こったことや、パンを裂いてくださった時に、主イエスだと分かったことを報告した。彼らは、主イエスは十字架で死んだけれども復活し「生きておられる」という喜びを共有し合った。

ルカ福音書の著者は復活した主イエスが突然消えたと書いている。理性では説明できない秘儀を信仰において受け入れよと勧めている。聖書が告げる真理に導かれ、主イエスは復活し、生きて共にいてくださると信じる時、心は燃える。十字架の死から復活させた永遠の神が、どんなに深い挫折と絶望にあっても、確かな命を与えてくださっている。その恵みと祝福が私にも及んでいるという救いを体験するからである。